

- もうすぐ、掛塚まつり P1
- いわたのこんなお話～福田編①～ P2
- ふるさとの指定・登録文化財(23)
紙本墨画山水図 福田半香櫃・平井顕斎筆 P3
- 夏の企画展こぼれ話 P4

提燈が揺れ、金箔が輝くまつりの夜



掛塚まつり
 十月十九日(土)
 二十日(日)

もうすぐ、掛塚まつり

掛塚祭屋台囃子(県指定民俗文化財)の音が響く

10月の遠州地方は屋台祭り真っ盛り。その中でも、掛塚屋台は、建造年(江戸～明治時代)が古く、由緒ある彫刻師の彫りものが見られます。掛塚貴船神社の祭りは、10月19日、20日の両日に行われ、9台の華麗な屋台が、神輿のお供をして町内を引き廻されます。

掛塚まつりは夜の祭りといわれ、かつては、宵祭りの日の朝、屋台を組み立て、夕方から引き出して明け方まで引いていたといえます。昔ながらのろうそくをともした提灯が揺れ、その柔らかな灯りに照らし出された金箔の輝きは、見る人の心をとらえます。終戦の年には、若者たちが竹筒を使って自らろうそくを作り、屋台を引いたと伝えられています。その提灯も、町によって笹竹につける間隔や糸の長さが微妙に違い、その美しさを競っているのも伝統の技の積み重ねの一つです。祭りの夜を満喫してみませんか。

19日は、16時30分頃から提灯を付けた屋台が貴船神社の境内に引き込まれ、18時からの宵祭りの祭典に加わります。20日は、午前中に屋台が神社境内に集まり、大祭の神事が行われて、正午前に神輿渡御が神社を出発します。屋台は16時半頃、提灯を付けて御仮宮のある蟹町を出発し、すでに還御した神輿に従って18時頃に神社に引き込まれます。

掛塚祭屋台囃子・・・入船囃子・出船囃子(神社へ出入り時)、大庭(おおば)囃子(神社境内)、神楽(かぐら)囃子(神輿巡行のお供)、お公卿(くげん)囃子(各町への帰り)など場面ごとに異なるお囃子が演奏されます。お囃子の数種類が県の民俗文化財に指定されています。



身近な文化財をシリーズでご紹介します。文化財を探しながら市内を歩いてみると、あちらこちらに石碑やお地蔵様などがあることに気づきます。指定文化財ではないけれど、造られたもの一つひとつに、地域の出来事や人々の思いがあり、そこに歴史が刻まれています。ほんのちょっと立ち止まって、地域の歴史に目をむけてみてはいかがでしょうか？

石にきざまれた歴史 きふね 貴布祢神社の石碑

蛭池の貴布祢神社は、「高たか竈かみのかみ神」を祭る、蛭池の氏神です。「高竈神」は祈雨や水難除けの神様として信仰されています。神社は、北側を流れる古川(旧太田川流路)から集落を守るために造られた堤防のすぐ南側にあり、集落を水害から守るためにまつられています。

神社の裏手(北側)に堤防と思われる高まりが残り、タブノキが生えています。木の根元を見ると、石碑が木に抱えられるようにして持ち上がっています。

石碑は見えている部分の長さ55cm、幅30cmの規模で、細長い丸形をしています。「奉納扶桑國中...、寛永十三年」と刻まれています。下にも文字が刻まれている可能性があります。木に食い込んでいるため、確認することはできません。

「扶桑ふそう」は、中国の伝説で、東方の海上にある国のことですが、「日本」の異称としても用いられます。「寛永十三年」は西暦では1636年であり、江戸時代、3代将軍家光の時代です。

地区の言い伝えでは、かつて古川の水害に見舞われ、流れ着いた農耕用の牛や馬の遺体を埋葬した場所に石碑が建立された、といわれています。

建立されてからおよそ400年、石碑は地域の移り変わりを今も見続けています。



貴布祢神社 (蛭池)



タブノキ(根本部分) 矢印部分が石碑



石碑



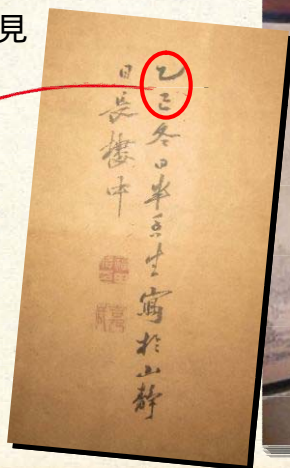
銘文の拓本

今回は、平成23年5月9日に磐田市の文化財に指定された『紙本墨画山水図 福田半香筆』
『紙本墨画山水図 平井顕斎筆』を紹介します。

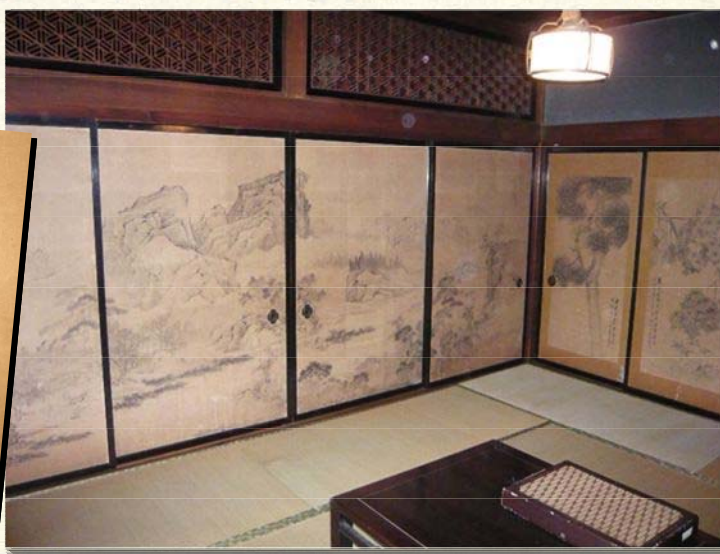
福田半香と平井顕斎は、共に江戸時代後期の日本を代表する画家として著名な渡辺華山^{かざん}の高弟で、華山十哲の一人に数えられる程の画人です。これらは、作品が優秀で文化史上貴重なものとして指定されたものであり、磐田市の歴史を考えるうえでも重要な文化財です。

見付出身の江戸時代の画人福田半香 42歳の時の作品で、水墨画の大作を作りはじめた時期であることから大作といえます。38歳の時に師 華山が亡くなり、その失意を乗り越え、己の水墨画の境地を見出していき、その頃の作品です。

乙巳の冬と書いてあることから弘化二年(一八四五)の作と推定されます。



紙本墨画山水図 福田半香筆(4面)

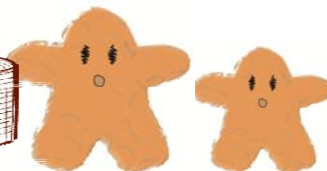


顕斎は牧之原市の出身で、半香と同じく掛川藩の絵師 村松以弘について絵を学び、のちに華山に弟子入りをしました。山水画を得意とした顕斎の特徴が表れている大作で、顕斎の晩年の画号である「三谷山樵^{さんこくさんしやう}」が記されています。

紙本墨画山水図 平井顕斎筆(4面)



♥夏の企画展『明ヶ島土製品展』こぼれ話♥



7月から8月にかけて行った『明ヶ島土製品展』では、延べ5,340名と多数の方々に来場していただき、誠にありがとうございました。今回は、企画展の中からちょっとだけご紹介します。

古代琴の音

明ヶ島古墳群で見つかった25点の琴形は様々な形をしており、日本の音楽史研究に大きな成果をもたらしたと言われますが、実際にどんな音色が奏^{かな}でられていたのかについてはまだまだ良く分かっていないのが現状です。そこで、企画展記念演奏会では、奈良県在住の古代琴奏者・遼安(りょうあん)さんをお招きしました。



琴を弾く埴輪と同じ恰好で演奏する遼安さん。幻想的な音色に魅了されました

遼安さんからは、

『現在、琴と呼んでいる楽器は正しくは箏^{そう}という楽器で、感情を表現できるが、古代琴は素朴で単調な音である』

『弦は絹でできていた可能性が高い』

『箏と異なり、膝にのせて弾いていた』

『実際に音を鳴らさない儀礼用の琴があった』

といったように、単に古代琴の形の特徴のみならず、実際に琴を復元し弾いてみた上での貴重なお話をいただくことができました。こうした演奏会の企画は、文化財課では初めての試みでしたが、ご来場の皆様にはお楽しみいただけたのではないのでしょうか。

人形土製品総選挙

前号でも紹介したように、展示会場では、人形土製品の人気投票を行い、週ごとに展示位置を入れ替える、ということも試みました。来場者の方々にも好評だったようです。なお、1位となった89番に投票した方たちの理由を紹介します。

1位 89番(全2041票中455票獲得)

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 小さくてかわいい • 完成度が高い • 星みたいだから • 知っている子に似てるから • 息子に似ている • ストラップにして欲しい • ダンスしているみたい • 優しく語りかけてくる表情 | <ul style="list-style-type: none"> • 動きを感じる、かっこいい • ふなっしーに似ている • 顔がはっきりしている • いきいきしている • のんびりとした雰囲気がある • 私も子供なので投票しました • いやされる • 子供らしさが表現されている | <ul style="list-style-type: none"> • なんとなく • 顔がいい • 愛嬌がある |
|---|--|--|



このように、文化財課の企画展では、これからも来場者の方々を楽しんでいただけるような工夫を考えていきたいと思っております。今後も楽しみにして下さい。

食欲、スポーツ、読書(文化)の秋です。気候のよいこの季節は、動きたくてウズウズしてしまいます。そこでオススメ!・市内の文化財を巡ってのウォーキングウ〜(古っ…) 『市内文化財案内図』をご活用ください。

発行：磐田市教育委員会文化財課
(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：32-9699
FAX：32-9764
Mail：bunkazai@city.iwata.lg.jp

